習得した話し方を実際の討論会で活用する

小学校第６学年　国語科学習指導案

１　単元名　　説得力ある話し方で討論会をしよう（６月上旬）

２　用いる教材　　「学級討論会をしよう」（光村図書）

３　単元のねらい

○　必要な文言や数値などを引用したり，図解したり，重要語句の定義付けをしたりする話し方と頭括型や尾括型，双括型を用いた話し方を学び，実際の討論会で用いる。

○　討論会の進行方法を理解し，自分の考えや理由をはっきりさせてから討論会に参加する。

（言語活動）

○　調べたことやまとめたことについて，討論などをすること。

４　指導計画（全７時間）

第一次	１．２時間目	ＣＤの討論会を聞き，気付いたことを発表する。 討論会の進め方を理解するとともに，説得力のある話し方を学ぶ。ここでは，「必要な文言や数値などを引用したり，図解したり，重要語句の定義付けをしたりすること」と「頭括型と尾括型，双括型を選択すること」を習得する。
第二次	１～３時間目	学級討論会で話し合う論題を作り，役割分担を決める。 習得した話し方を活用して，討論会を開催する。
第三次	１．２時間目	親子討論会で話し合う論題を作り，役割分担を決める。 授業参観を利用して，親子討論会を開催する

５　指導の構想

本単元は，第５学年及び第６学年の「Ｃ話すこと・聞くこと」の言語事項例「イ調べたことやまとめたことについて，討論などをすること。」を取り入れたものである。

指導計画にあるとおり，本単元では討論会の進め方自体を理解し，司会者の役割から肯定派や否定派の話し合う順序までを具体的に知ることになる。その上で，第一次で，説得力ある話し方として，中学年で学ぶ「理由や事例を挙げて意見を述べること」から一歩進めた「必要な文言や数値などを引用したり，図解したり，重要語句の定義付けをしたりすること」と「理由や事例と結論の位置により，頭括型と尾括型，双括型があること」を習得する。その話し方を第二次及び第三次の実際の討論会で活用していくことになる。

第二次及び第三次においては，説得力ある話し方として習得したことを想起させるとともに，その話し方を使った効果を自覚させたい。それにより，次単元や他教科でも用いることにつながると考える。

６　本時の指導

（１）本時のねらい（４／７時間目）

どのように話すのかを考えさせることをとおして，説得力ある話し方として学んだ「必要な文言や数値などを引用したり，図解したり，重要語句の定義付けをしたりすること」と「理由や事例と結論

の位置により，頭括型と尾括型，双括型があること」をどのように用いるのか考えることができる。

（２）展開

教師の働き掛け	学習活動と予想される反応	評価と留意点
１　前時に決めた論題と役割分担を基に，自分が話し合う論題を確認させる。 指示「これが前時に決めた論題と役割分担ですが，自分がどの論題でどのような役割かを確認しなさい。」	１　自分が話し合う論題を自分の立場から考える。 ・私は賛成派なので，この論題については，〇〇という理由から賛成する。 ・私は反対派なので，この論題については，△△という理由から反対する。	・前時に論題を作成するが，学習意欲を喚起するためにも，子どもに論題を作らせたい。
２　話す際に，どのような話し方が説得力あるものであったのか想起させる。 発問「前時までに説得力ある話し方として，どのような話し方がありましたか。」	２　説得力ある話し方として「必要な文言や数値などを引用したり，図解したり，重要語句の定義付けをしたりすること」と「理由や事例と結論の位置により，頭括型と尾括型，双括型があること」を想起する。 ・この前，根拠や事例の説明の時に数値などを引用したり，図解したりすると説得力があることが分かった。 ・頭括型と尾括型，双括型があった。	・教師から伝えるのではなく，子どもたちに想起させる。
３　自分の話し方を考えさせ，自分の参加する討論会への準備をさせる。 指示「討論会でどのように話すのかを，話し方メモに書きなさい。」 （思考力・判断力を育成する）	３　自分の意見を話すときに根拠や事例をどのような説明するのか，また，結論をどの位置に置くのか（頭括型，尾括型，双括型か）を考える。 ・私はこの〇〇という理由に数値を入れよう。 ・説得力が増すように双括型で話そう。	・習得した話し方をどのように活用するか，話し方メモに書かせる。 ◇根拠や事例の説明の仕方と結論の置く位置を見直すことができる。
４　討論会を行い，自分の話し合いを評価させる。 指示「自分の話し方に説得力があったのかを振り返りなさい。どこが良くて，どこが問題だったのかを書きなさい。」	４　自分の意見を話すときに工夫したこと（根拠や事例の説明の仕方や結論の位置）が効果的であったかを振り返る。 ・頭括型にしたので，相手にも自分の結論が分かってもらえた。	◇自分の考えた根拠や事例の説明の仕方と結論の置く位置の工夫の効果が実感できる。